



電気通信大学からの PNG 高等教育省への 4,000 台のタブレットの供与

伊藤 明德 （ポートモレスビー支部長）

電気通信大学（田中 健次 教授・石垣 陽 特任准教授）は、(株)ビデオリサーチから再生タブレットの無償供与を受け、国内外の遠隔教育や衛生環境の向上に役立てる活動をしています。この度、伊藤ポートモレスビー支部長の調整により、4,000 台の再生タブレットが、PNG 高等教育省と教育省へ供与されました。2020 年 8 月 11 日にパプアニューギニア大使館にて、電気通信大学の田野 俊一 学長、パプアニューギニア大使館サムソン・ヤボン代理大使、日本・パプアニューギニア協会 橋 廣治会長と島田謙三事務局長の立ち合いの元、贈呈式が行われました。

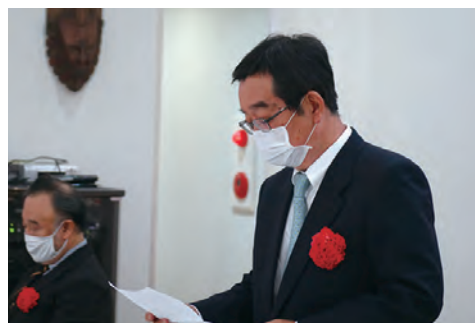
PNG 教育省は、教育の質の改善のために、2014 年に新カリキュラムを施行しました。日本政府は、PNG 政府の要請を受けて、2016 年から 2019 年まで「理数科教育の質の改善技術協力プロジェクト」を実施して新カリキュラムに沿った理数科の 3 学年から 8 学年までの国定教科書と指導書と指導書を作成しました。伊藤支部長は、このプロジェクトの総括として、そして、本協会法人会員の学校図書株式会社から 2 名の編集者が案件に従事して、日本の優れた理数科教育と教科書と指導書開発の知見と経験を活かして、現地カウンターパートに指導を行い、PNG に合った質の高い教材を開発しました。2019 年から配布が

行われ学校現場では、教科書と指導書が使われています。

また、学校図書は、文部科学省のスキームを利用して教員養成校と教員向けのデジタル指導書の開発を教育省と一緒に進めました。開発された指導書をデジタル化して、理科の実験動画などを加えて、教師がより指導書を有効に活用できるように工夫しました。このデジタル指導書を使うタブレットを伊藤支部長のアレンジで、電気通信大学から供与されることになりました。

さて、式典では、橋会長よりお祝辞を頂き、日本と PNG の友好親善のために協会が支援することをヤボン代理大使と来客の方へお伝えしました。ヤボン代理大使からは、PNG は教育が優先課題であり、大学と民間レベルからのタブレットの支援に感謝を述べられました。

この寄贈では、日本からポートモレスビーまでの輸送費を全て PNG 高等教育省が準備しました。9 月 16 日に船便で輸出されたタブレットは、10 月 16 日に無事に高等教育省へ届けられ、高等教育省は、学校図書の支援の元で、学校での使用の準備を進めています。PNG の教育現場では、日本の政府開発援助で開発された教科書と指導書とデジタル指導書により、少しずつ理数科教育の質が改善されていくことと思います。



橋会長のご挨拶



タブレットの供与
(左から 野田学長、ヤボン代理大使、芹澤 克明学校図書社長)



学校図書メンバーと伊藤支部長、ラファエラ協会会員

企画展「オセアニア民族造形美術品展 - セピック川流域の精霊と文化 -」を見学して

川口 築（当会理事）

「本庄市にパプアニューギニア!？」

パプアニューギニア（PNG）の企画展があるのを知り、早速、埼玉県本庄市に 10 月 15 日にオープンしたばかりの「本庄早稲田の杜ミュージアム」を訪問しました。



「早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター」の1階がミュージアムです。

当ミュージアムは、本庄市と早稲田大学とが共同で運営するというユニークなもので、早稲田大学本庄キャンパス内（本庄早稲田駅から徒歩すぐ）にあります。館内は本庄市の常設展示室と早稲田大学の展示室から成っています。本庄市側では、約 2 万年前（旧石器時代）から始まる郷土の歴史を伝えるために、ユニークな「笑うはにわ（盾持人物埴輪）」を始めとする約 360 点の出土品等が展示されています。一方早稲田大学側では、グローバルな文化を紹介するために、500 万点以上の所蔵物から選ばれた文化財が期間限定で公開されています。中でも PNG を中心とするオセアニアの民族造形美術品は、質・量とも大変充実しており、メインの展示物に位置づけられています（毎年一度はオセアニアの企画展が開催される予定とのことです）。



本庄市の展示にある「盾持人物埴輪」です。笑っています。



セピック地方の美術品です。手前は儀式用仮面土器で、奥はハウスタンバラン（精霊の家）に飾られていた装飾品です。



戦闘用や装飾用の盾や蹲踞女性像の腰掛け、精霊像付き鉤が展示されています。

第一回目の当企画展では、PNG の祖先像や仮面、盾、土器、太鼓その他計 116 点が、大変見やすく展示されていました。多様なプリミティブ・アートを間近に見ることが出来、その迫力を感じとれるものでした。

これらは元々埼玉県鶴ヶ島市で保管されていた「オセアニア民族造形美術品」で、2010 年に早稲田大学に寄贈されたものです。更に鶴ヶ島市は、1995～1996 年に新潟県南魚沼市出身の今泉隆平氏から当コレクション（1980 年より収集の PNG セピックアートを中心とする 8000 点以上の内、1725 点）を寄贈されていたのでした。鶴ヶ島市は、これらを「自然と人と

の共生を象徴する文化遺産」と位置付けて、学校教育の分野や展示会、講演会等で活用してきました。しかし保管上の問題から、良好な収蔵環境の下で次世代へ承継でき、また専門的・学術的な調査・研究が行われることが期待できる大学機関に譲渡されることになったのです。結果、早稲田大学、南山大学、天理大学に分割して寄贈され、うち早稲田大学には 6 割（千点）以上が移っています。遠く PNG からやってきて、日本を国内であちこち引越してきた品々が、終の棲家を得たような感じですね。

今回は、2012 年まで「オセアニア文化に親しむ会」として鶴ヶ島市の事業をサポートされていたグループ「ポリトライブ」の皆さん（高柳さん、高田さん、植田さん）と見学しました。皆さんは 10 年以上に渡りこれらの美術品を大切に保存し、活用されてきました。懐かしの品々に再会され、「自分の子供達に会ったような感じです」と大変喜んでおられました。また本庄市職員の方のお話では、オープン以来連日大勢の方が見学に来られていて、大盛況だそうです。今回の企画展は、来年 1 月 11 日までの開催です（入場料無料です）。



元ポリトライブのメンバーの皆さんと。

久しぶりにパワフルな PNG の芸術品に接し、大いに元気をもらいました。

1) 茂木大臣のパプアニューギニア訪問 2) ナザブ空港整備計画起工式

茂木大臣のパプアニューギニア訪問

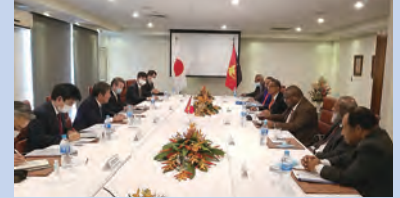
8月20日から21日、茂木外務大臣がPNGを訪問しました。昨年5月のマラベ政権発足後、日本の閣僚として初めての訪問であり、また、新型コロナウイルスの感染拡大以降、PNGにとって初めての外国閣僚による訪問でした。滞在中は行動範囲をホテル内に限定する等、コロナ対策についてPNG政府との綿密な調整を行いました。

20日夜にはマラベ首相主催の夕食会が開催され、マラベ首相から、コロナ対策のため宿舎から出られない茂木大臣に少しでもPNGの素晴らしさを紹介したいと用意された約5分間のビデオが上映されました。終始和やかな雰囲気の中、日本とPNGの関係一般、新型コロナウイルスの影響等を始め、多岐に亘って活発な意見交換が行われました。マラベ首相の趣味であるゴルフや卓球の話題にも花が咲き、来年の東京オリンピックが盛況に開催されることへの期待も語り合われました。

翌21日に行われたマラベ首相との二国間会談において茂木大臣は、今回の訪問はPNGを重要視している証であるとしつつ、本年4月に多くの日本人の帰国が実現したチャーター便（注：前回の「ごくらくちょう」でご紹介した大日本土木社が手配した便）の運航に際するPNG政府による支援に感謝する旨述べました。これに対してマラベ首相は日本からの様々な支援に対する謝意が述べられると共に、今回の茂木大臣の訪問を機に二国間関係を更に強化したいと述べました。また、両者は、新型コロナウイルス

対策やPNG経済の早期回復に向けた取組、LNGを含む経済関係、遺骨収集や国際場裡における協力等、幅広い分野における議論を行うと共に、来年の第9回太平洋・島サミット（PALM9）に向けて、引き続き緊密に連携していくことで一致しました。そして会談の最後に、両者は「日本とパプアニューギニアとの間の二国間関係の更なる促進のための意図表明文書」（外務省HPに同文書掲載）に署名しました。

今回の茂木大臣の訪問は、コロナ禍という特殊な状況の下で行われたということもあり、非常に短時間で且つ行動範囲の限られたものではありませんでしたが、同時に、日本がPNGを重要視していることがPNG側に強く印象づけられ、非常に有意義で実り多い訪問となりました。



マラベ首相との会談。
右側手前よりデマ工商大臣、クア石油・エネルギー相、マラベ首相、リング＝スタッキー財務相、バシル国家計画モニタリング相、パイタ金融相、アイシ首相府副次官



マラベ首相と「意図表明文書」に署名。

ナザブ空港整備計画起工式

7月30日、モロベ州レイ市近郊において、日本政府の支援で建設されるナザブ空港の起工式が実施されました。式典には、ジェームス・マラベ首相をはじめとして、サム・バシル副首相兼国家計画モニタリング大臣（当時国家計画モニタリング大臣）、レクワ・グレラ労働関係大臣（当時民間航空大臣）、ギンソン・サオヌ・モロベ州知事、ロス・シモ・ナザブ郡選出国會議員、ウィリアム・サム運輸大臣、ジョン・ロッソ土地計画大臣、マイケル・ナリ公共事業大臣、レインボ・パイタ金融大臣、ブライアン・クレイマー警察大臣、クリス・ナングイ矯正大臣、コニ・イグアン国会副議長など蒼々たる顔ぶれを含むPNG政府関係者約60名、JICAから鯉沼JICA・PNG事務所長、ジョン・フィリプ豪州大使、大日本土木・山田土木部土木グループ部長、現地サブ・コン（HEBOU、NKW Constructor、Fletcher）代表者、地元住民代表など、合計約100名がソーシャル・ディスタンスに配慮する形で出席しました。

この整備計画は、既存の空港を国際空港とするために滑走路及び誘導路を拡張・強化するとともに、空港ビルを新設するもので、日本政府は約270億円（870百万キナ）の円借款を実施すること

となっています。完成すれば、ポートモレスビーのジャクソン空港に次ぐPNG第二の空港となります。

建設工事は、大日本土木とNIPPOの合弁会社が主な施工を行い、オリエンタルコンサルタンツグローバルと梓設計の合弁会社が設計・管理を行います。新設される空港ビルは、最新技術を用いて環境に配慮した設計となり、上空から見るとPNG伝統楽器「クンドゥー太鼓」の形をしていて、日PNG友好の真の象徴となると期待されます。

マラベ首相は起工式のスピーチで、この空港は日本との友好の象徴として、空港名を「ナザブ・トモダチ空港」にしたいと述べられ、日本語で「アリガトウゴザイマシタ」と締めくくられました。



鉄入れ式に使ったショベルカーの前で
左からグレ労働関係大臣（当時民間航空大臣）、大日本土木社員、マラベ首相、中原大使、鯉沼JICA・PNG事務所長、サオヌ・モロベ州知事、フィリプ豪州大使

Video Research Ltd & The University of Electro-Communication Smile Tablet Project & Government of Papua New Guinea

荻原 聖子（パプアニューギニア大使館 大使秘書）

久しぶりに8月11日に大使館内で小さなイベントがありました。

本来、大使館ではコロナ禍においてのご訪問等はしばらく控えて頂いていますが、供与式典という形ですので、今回は特別に催行されました。とはいえ、コロナ禍の中でのイベントですので、人数は最小人数かつ最新の注意を払われながら、行われました。

今回は、ビデオリサーチ社様と電気通信大学スマイルタブレットプロジェクトにより、パプアニューギニア政府への研究用タブレットが4,000個寄贈され、その供与式典でした。

式典は、日本・パプアニューギニア協会の新協会長である橋廣治会長を始め、電気通信大学学長の田野俊一学長、学校図書株式会社社長の芹沢克明社長、など12名の出席者の方々より、ヤボン臨時代理大使のほうへ、目録が授与されました。

1時間という短い間ではありましたが、出席者の皆様と研究用タブレットの利用方法、今後のパプアニューギニア政府とこのプロジェクトに対する活動などについて活発な意見が交わされました。この研究用タブレットが政府としていかに活用されるか今後の状況を見てまたご報告できればと思います。



加藤 雄彦 (理事長)

2020年、創立115年目を迎える学校法人仙台育英学園は、1905年(明治38年)、加藤利吉先生により創立されました。本学園は「至誠」、「質実剛健」、「自治進取」の建学精神のもと、国際的な視野で世界に羽ばたく人材の育成に尽力して参りました。世界14カ国に115校の姉妹校を擁して交換留学を行うと共に、150名程の留学生を常時、本学園に受け入れております。又、2015年からは国際バカロレア認定校と成り、更なる国際化を推進しております。

パプアニューギニアとの交流の始まりは、東日本大震災のあった2011年に遡ります。3月11日の震災により校舎は損傷を受け、建て替えが必要となりました。置き場所を失った校舎内の机、椅子、ロッカーなどの学校用具を、震災の支援に多くの尽力を頂いたと聞きましたので、パプアニューギニアの学校に寄贈する事に致しました。

パプアニューギニアには個人的に強い思いがあります。今からちょうど75年前の8月1日、私の祖父である日本帝国海軍大佐 加藤栄吉 第87警備隊司令はBC級ラバウル豪州軍事裁判による死刑判決でラバウル刑場の露と消えました。会津若松出身の祖父は仙台育英学園の創立者である兄 利吉



ソゲリ国立高校を訪問した筆者(2019年10月)

を頼って仙台に移り、海軍兵学校を第46期生として卒業後、軍歴を重ね、1943年9月からブカ島及びブーゲンビル北部の部隊司令として約8千人の海軍将校と下士官兵を指揮し、終戦の詔勅まで獅子奮迅の闘いを貫いたと伝えられています。

祖父の遺言のなかには、「コレカラ新日本建設ノタメ一大勇猛心ヲ以て努力セヨ」とあり、この言葉が戦後の学園発展、東日本大震災からの復興の鍵となったことは間違いありません。それは「祖国の教育振興のために力を尽くし、自分の終焉の地となったこの国の人々のために為す事を成しなさい。」と諭されている様な気がしています。

2016年8月、建国の父マイケルソマレ氏も卒業した名門校のソゲリ国立高校と日本初の姉妹校締結を行いました。そして同校の校舎内に仙台育英&ソゲリ日本語センター(JLC)を設立し、日本から日本語教師を派遣し、日本語の授業を実施すると共に、同校から生徒、教職員の日本での受け入れを進めております。本学園は、日パ友好関係を深める上で、教育を通じた人



仙台育英学園高等学校宮城野キャンパス栄光館

的、文化的交流の力を信じております。今後とも協会の皆様のご理解とご支援を賜り、両国の教育交流を実りのあるものにしていく所存です。

事務局からのお知らせ

皆様新型コロナウイルスの自粛体制の中、如何お過ごしでしょうか? 協会ではTOKTOK会の開催、新旧会長を囲んでの懇親会などを計画はいたしておりますが、未だ実施できない状況であります。在京の新パ

プアニューギニア大使が近々ご赴任との話も聞き及んでおり、協会では歓迎会を開催の予定です。詳細が決まりましたら直ぐに御案内させていただきます。また現在協会でPNGの軍楽隊への引き続きのサポートを実施しております。協会の個人会員様の強力な御協力を賜り実行が可能となったプロジェクトになり

ます。近日中に詳細をご案内できると思います。ご期待ください。

機関紙ごくらくちょう、メルマガ共に皆様からの情報をお待ち致しております。本年最後のごくらくちょうとなります。残りの2ヶ月お元気でお過ごしください。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員: 25社 ◆ 個人会員: 130名 (2020年10月31日現在)

お問い合わせ先

日本・パプアニューギニア協会
事務局

〒103-0021

東京都中央区日本橋本石町3-2-12 社会保険労務士会館9階 日本ビジネスライン(株)内

TEL: 03-5216-3555

FAX: 03-5216-3556

E-mail: info@jpng.or.jp

URL: http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方へぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員 6,000円 家族会員 3,000円 法人会員 60,000円 学生、PNG人 1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ